

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-134- (2面)
- ・牛乳・乳製品の需給見通し (3面)
- ・牧原牧場(株) 薩州開拓共進会で2年連続2冠達成 (4面)
- ・オオムギ間作・開花植物で害虫抑制(宮城) (5面)
- ・焼成したホタテ貝殻 薬剤耐性菌対策の堆肥化資材に (6面)
- ・βカロテン製剤給与でビタミンA制御緩和(千葉) (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ https://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

連盟・振興協会が総会開催

開拓営農の持続的発展

全日本開拓者連盟

全日本開拓者連盟の第79回通常総会が6月12日、東京・市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」で開かれた。

今年には任期満了に伴う役員選任があり、総会終了後の新中央常任委員



新役員の方々 上：全日本開拓者連盟 下：全国開拓振興協会

議事に入り、24年度運動方針など、上程された6つの議案は全て承認され、新津賀庸(中央)が副委員長、野田頭和義(東北)が中央常任委員、黒岩(優)(九州)と西谷悟郎(中央)が役員に選任された。

石原文義(中部・関西)が新委員長に就任した。

開拓営農振興事業拡充

全国開拓振興協会

6月12日、全国開拓振興協会は連盟に続き、第12回定時総会を開催。

西谷悟郎会長の開会挨拶(2面に要旨)後、上程された5つの議案等は全て可決された。

当協会も、任期満了に伴う役員選任の件が上程され、候補者名簿通り決定した。新役員らが別室で会長と専務理事の互選を行い、次のとおり発表して閉会した。

- | | |
|----|-----------|
| 専務 | 松本納広(学経) |
| 理事 | 伊藤重敏(北海道) |
| 理事 | 野原修一(東北) |
| 理事 | 八代正幸(関東) |
| 理事 | 井上富男(九州) |
| 理事 | 新津賀庸(全国) |
| 理事 | 増田昌洋(全国) |
| 理事 | 菊地文夫(全国) |
| 理事 | 坏幸一(全国) |
| 理事 | 牧野展也(全国) |
| 理事 | 林正己(全国) |
- (実務精通者)

改正基本法が成立

食料安全保障を軸に四半世紀ぶり

5月20日に「改正食料・農業・農村基本法」が成立した。

世界的な食糧情勢の変化による食料安全保障上のリスクや、国内の人口減少など食料事情の変化に対応するため、四半世紀ぶりの改正となった。

食料・農業・農村基本法は、農政の基本理念や政策の方向性を示すもの。改正基本法では、①食料の安全保障の確保②環境と調和のとれた食料システムの確立③多面的機能の発揮④農業の持続的な発展⑤農村の振興、を理念法として掲げる。

新技術の導入による農業のさらなる効率化を目指す。不測の事態の時以外に

23年度食料・農業・農村白書公表

23年度の「食料・農業・農村白書」が5月31日に公表された。

今回の特集は「食料・農業・農村基本法の検証・見直し」についてで、基本法見直しの経緯や、制定後の情勢の変化と今後20年を見据えた課題、政策の新たな展開方向等について記述されている。

各章の項目は以下のとおり。

- ①食料安全保障の確保
- ②環境と調和のとれた食料システムの確立
- ③農業の持続的な発展
- ④農村の振興
- ⑤災害からの復旧・復興や防災・減災、国土強靱化等

酪農家の一番ハードな季節



酪農にとって、一番草刈り取り時期は、一年で最も忙しくなる時だ。

岩手県滝沢市の花平開拓も、まさに収穫作業の真っただ中(6月9日)。

広大な牧草地で、良質な牧草を収穫するのは、並大抵のことではない。晴れの日は続く時を見計らって、一気に作業を進める。

写真は、ロールを作っている場面。(撮影北田)

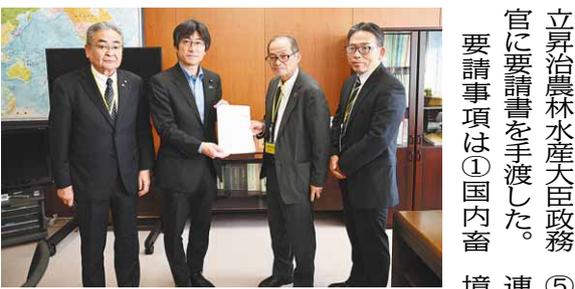
24年度の事業は、昨年度に続き、開拓営農振興事業を大幅に拡充する。

開拓関係諸行事事業の中から、会員が選択して実施する開拓営農支援対策、開拓営農推進対策及び開拓営農支援強化対策に対して助成し、将来に向けて足腰の強い開拓営農、開拓農家を育成する。

海外研修は今年度も現地研修は見送り、開拓農家が参考となる現地の農業情報等を、動画配信で紹介する。

今年度は、全国開拓青年・女性研修会を、全日本開拓者連盟と全国開拓農業協同組合連合会との共催により島根県(中部・関西ブロック)で11月に開催する。

また、当協会が保管する戦後開拓に関する各種資料について、経年劣化が著しいことから、順次その電子化を進める。



舞立政務官は「脱脂粉乳対策などを行い、需給改善に取り組んでいく。また、乳価引き上げ等、コスト増に対応した政策に何とか取り組みたい」と述べた。

舞立政務官は「脱脂粉乳対策などを行い、需給改善に取り組んでいく。また、乳価引き上げ等、コスト増に対応した政策に何とか取り組みたい」と述べた。

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

安心して営農できるように
 開拓三団体が要請活動

全日本開拓者連盟は総産・酪農の経営安定対策と生産基盤の拡充・強化②畜産関連補助事業の拡充・強化③適正な価格形成と理解醸成対策④震災・災害・コロナ禍等、菊地委員長、新津全開連会長、西谷振興協会会長、開拓中央三団体の役員6名が、農水省の舞立政務官と農水大臣官に要請書を手渡した。

要請事項は①国内畜産・衛生対策等関連諸対策の拡充・強化②生産現場の実情把握の強化、の7項目。



食料・農業 知っておきたい話 第134回 改定「基本法」は食料・農業・農村を救うか 3

東京大学大学院教授 鈴木宣弘氏

日本は国内のコメの生産力も十分あるのだから、もう少し増産して備蓄すればいいはずだ。そうすれば、みんなが困ったときに食料を国内でちゃんと確保することができ

金の高騰などによる生産原価の上昇が、依然として経営を圧迫しており、主要政策の見直しの方向性を示しております。

政府は、「食料・農業・農村基本法」の検証・見直しにより、「食料安全保障の確立」を最重要課題とし、「国内農業生産の拡大を基本理念の一つに掲げており、食料の安定供給を進めてまいります。

我々農業者にとっても、配合飼料や、電気料

また、物流が止まれば意味のないような、海外における日本向け生産への投資などに資金を使うなら、どうして国内生産強化に財政投入しないのか。財政負担が限界だという説明は理由にならない。命を守る安全保障は必要だから、予算は捻出

その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するた

め、共に闘おうではありませんか。

皆様の絶大なご協力

で、提案した運動方針の実現に向け、開拓組織が一丸となって取り組んで行きますよう、節にお願

い申し上げます。

我々全国の開拓者が、

しなくてはならないのである。

コスト上昇を流通段階でスライドして上乗せしていくのを、政府が誘導する制度の導入が、「有事立法」と並ぶ「巨玉」とされたが、参考にしたフランス(エガリテ法による)でも実効性には疑問も呈されている。小売主導の強い日本ではなおさらである、と筆者は最初から指摘してきた。

やはり、政府にも困難さは理解されたので、目玉として掲げてしまった価格転嫁誘導策の旗をどう降ろすか、という段階

にきている。業界の皆さんを集めた協議会をやった何か「やった感」を出しておしまいになりそうである。

そもそも、消費者負担にも限界があるから、それを埋めることがそれが政策の役割だと思いが、それはやらずに、あくまで

民間に委ねようとする姿勢である。

欧米は「価格支持十直接支払い」を堅持しているのに、日本だけ「丸裸」だ。欧米並みの直接支払いによる所得維持と、政府買い上げによる需要創出政策を早急に導入すべきではないか。日本にも畑作のゲタ政策、コメのナラシ政策、収入保険などがあるから十分かのように説明されているが、

だったら、なぜ、現場が苦しんでいるのか。根本的問題は、生産コストの上昇が算入されないという

ことである。

▽種の自給の重要性への認識欠如

種の問題も深刻だ。日本の野菜の自給率は80%と言われるが、その種の9割が海外の畑で種取り

をしてもらっている。酪農などの牧草の種も同様

の状況だ。コロナ・ショックでこれが止まりそう

になって大騒ぎになった。本当に止まったら自

▽田んぼ「潰し」に750億円

麦や大豆の増産も重要である。しかし、水田の短絡的な畑地化推進は極めて危険である。コメ需要が減少しているとして、水田の畑地化も推進しようとしているが、加えて、水田を水田として維持することが、有事の食料安全保障の要であり、地域コミュニティ、伝統文化の維持、洪水防止機能などの大きな多面的機能もある。

中国は今、有事に備えて14億人の人口が1年半食べられるだけの穀物を備蓄しようと、世界中から買い占め始めた。こうなる事態が良くなる見込みがない。かたや日本の備蓄はどれだけあるのか。コメを中心にせいぜい1・5カ月。がんばっても2カ月分くらいしか無理だということだ。全くレベルが違つて

日本は国内のコメの生産力も十分あるのだから、もう少し増産して備蓄すればいいはずだ。そうすれば、みんなが困ったときに食料を国内でちゃんと確保することができ

その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するた

め、共に闘おうではありませんか。

皆様の絶大なご協力

で、提案した運動方針の実現に向け、開拓組織が一丸となって取り組んで行きますよう、節にお願

い申し上げます。

我々全国の開拓者が、

しなくてはならないのである。

コスト上昇を流通段階でスライドして上乗せしていくのを、政府が誘導する制度の導入が、「有事立法」と並ぶ「巨玉」とされたが、参考にしたフランス(エガリテ法による)でも実効性には疑問も呈されている。小売主導の強い日本ではなおさらである、と筆者は最初から指摘してきた。

やはり、政府にも困難さは理解されたので、目玉として掲げてしまった価格転嫁誘導策の旗をどう降ろすか、という段階

にきている。業界の皆さんを集めた協議会をやった何か「やった感」を出しておしまいになりそうである。

そもそも、消費者負担にも限界があるから、それを埋めることがそれが政策の役割だと思いが、それはやらずに、あくまで

民間に委ねようとする姿勢である。

欧米は「価格支持十直接支払い」を堅持しているのに、日本だけ「丸裸」だ。欧米並みの直接支払いによる所得維持と、政府買い上げによる需要創出政策を早急に導入すべきではないか。日本にも畑作のゲタ政策、コメのナラシ政策、収入保険などがあるから十分かのように説明されているが、

だったら、なぜ、現場が苦しんでいるのか。根本的問題は、生産コストの上昇が算入されないという

ことである。

▽種の自給の重要性への認識欠如

種の問題も深刻だ。日本の野菜の自給率は80%と言われるが、その種の9割が海外の畑で種取り

をしてもらっている。酪農などの牧草の種も同様

の状況だ。コロナ・ショックでこれが止まりそう

になって大騒ぎになった。本当に止まったら自

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

我が国農畜産業を取り巻く状況は、依然として農業従事者の減少と高齢化に歯止めがかからず、農畜産物価格が低迷する中において、輸入に依存している原材料価格の上昇などにより、肥料などの生産資材価格や配合飼料価格が高騰し、厳しい状況が続いています。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。



西谷 振興会長総会挨拶

我が国農畜産業を取り巻く状況は、依然として農業従事者の減少と高齢化に歯止めがかからず、農畜産物価格が低迷する中において、輸入に依存している原材料価格の上昇などにより、肥料などの生産資材価格や配合飼料価格が高騰し、厳しい状況が続いています。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

食料自給率の再計算

品目	総供給熱量 (kcal)	国産熱量 (kcal)	自給率 (%)	肥料輸入停止時の国産熱量 (収量半減)	収量半減時の自給率 (%)	種自給率10%を考慮した国産熱量**	飼料、肥料、種を考慮した実質自給率
米	476	474	99.6	237	49.8	23.7	5.0
小麦	299	47	15.7	23.5	7.9	2.4	0.8
いも類	41	26	63.4	13	31.7	13	31.7
でん粉	154	12	7.8	6	3.9	6	3.9
大豆	73	18	24.7	9	12.3	0.9	1.2
野菜	66	50	75.8	25	37.9	2.5	3.8
果実	66	20	30.3	10	15.2	10	15.2
畜産物*	406	68	16.7	68	16.7	68	16.7
魚介類	78	39	50	39	50	39	50.0
砂糖類***	185	63	34.1	31.5	17	9.5	5.1
油脂類	327	9	2.8	9	2.8	9	2.8
その他	86	25	29.1	25	29.1	25	29.1
合計***	2259	850	37.6	496	22	208.9	9.2

資料：農林水産省による22年度食料自給率を基に鈴木宣弘氏が試算。*飼料自給率を反映した数値。**野菜の種の自給率10%が米・麦・大豆にも現実になったと仮定。***でん粉の種の自給率が約3割であることも考慮した。しない場合の実質自給率は、10.2%。

まず言われたのが、公的改定。

このように流れに歯止めをかけ、種の自給を確立し、農家の自家採種の権利を守ることを基本法に明記しなくては、いざという時に、日本人の命を守ることはできない。食料は命の源だが、その源は種である。種の自給なくして食料の自給はない。しかし、一言も触れられていない。「生産資材」の中に含めてあると説明があるが、通常、生産資材と言ったときに、肥料、農薬、機械などで、種はイメージされ

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

このようにときだから発展を図っていくことが重要であると考えていま

す。

協会の事業を円滑に実

施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より不可欠です。

本年度も関係者の皆様との一層緊密な連携のもとに事業を実施してまいります。

牧原牧場(株)連続2冠達成

第14回薩州開拓農協肉牛共進会

薩州開拓農協は5月17日、今回は、交雑種の部、熊本県錦町のゼンカに18頭(去勢12頭、雌6頭)、黒毛和種の部に12頭(去勢3頭、雌9頭)が出品された。



牧原組合長(右)から牧原恒士さんへ

格付・審査の結果、交雑種の部、黒毛和種の部に最優秀賞は、牧原牧場の出品牛が受賞した。牧原牧場(株)は、2年連続での2冠となった。

交雑種の部最優秀賞の牛は生後26・4カ月齢の去勢で、種雄牛「美津金幸」、枝肉重量528・2kg、ロース芯面積60・0cm²、バラ厚7・9cm、BMS No.11、格付B5。審査委員長は、「脂肪交雑が充実し、きめが細やかで最優秀賞にふさわしい」と評価した。

『誓の喜寿』77周年

庄内開拓魂を語り継ぐ会

青森県上北郡六ヶ所村の「庄内開拓魂を語り継ぐ会」は、5月22日の入植記念日に、入植77周年を祝う会を庄内集会所で開催した。

開拓2世を中心に20名が参集し、人間でいけば「喜寿」となる77周年を迎え大いに盛り上がった。47年に山形県の庄内地を中心、満州からは入植30周年から10年

肉質3等級以上比率94・4%、4等級以上比率66・7%、5等級比率11・1%。各測定値の平均は、ロース芯面積53・8cm²、バラ厚8・2cm、BMS No.5・4、歩留基準値69・9だった。

黒毛和種の部最優秀賞の牛は生後28・7カ月齢の去勢で、父「若百合」・母の父「耕富士」・祖母の父「安福久」、枝肉重量580・1kg、ロース芯面積97・0cm²、バラ厚11・1cm、BMS No.12、格付A5。

【交雑種の部】
最優秀賞 牧原牧場(株)
優良賞1 上羽坪畜産(株)
優良賞2 (公)みやぎと
最優秀賞 牧原牧場(株)
優秀賞 石原畜産(有)



開拓地巡り ウォーキング開催

開拓魂を受け継ぎ学ぶ

静岡県浜松市の三方原地区は、現在も地域で大切に開拓精神を守っている地区である。

戦後開拓の歴史を語り継いでいくと、「浜松北地域まちづくり協議会」が5月18日、



開拓碑の説明を熱心に聞く参加者の皆さん



「地域づくり講座 緑と水の溢れる三方原」を開催したウォーキング大会を開催した。参加者は25名で、3kmほどを歩いた。同協議会では三方原の歴史を学ぶウォーキング大会を定期的に開催している。

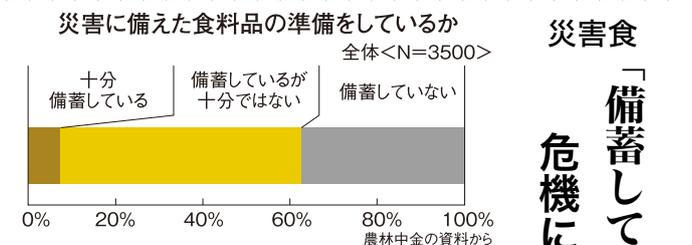
実際のウォーキングコースに沿って、当日説明が行われた開拓の歴史を紹介していく。

写真・地図ともに浜松北地域まちづくり協議会の資料から

①防風林緑地公園：開拓当時の防風林が残り、公園として整備されている。昔と比べて木の本数は少なくなっているそうだ。

②円筒分水：三方原の開拓農家全戸に水を平等に供給するため、開拓時代に作られた画期的な施設だった。現在も大切に保存されている。開拓碑の碑文も読み解き、当日は資料として配布したという。

③水田：現在も営農を続けている開拓農家の水田で、お米を作っている。開拓を始めた当初は、「三方原のお米なん



災害食「備蓄していない」4割 危機に備えて準備を

農林中央金庫は4月30日に「災害への備えと食に関する調査」の結果を公表。全国の男女3500人から回答を得た。「災害に備えた食料品の備蓄をしているか」は図のとおり。備蓄していない人が3割を超える。「ローリングストック」スキムミルクを災害リュックに！

防災バッグは重いと運ぶのが負担になる。タンパク質などを摂取するのが難しい。保存期間が長く栄養が多く、重さが軽いスキムミルクが、災害食にオススメである。



拓当時は非常に風が強くてマズくて食べられなかった。入植した開拓農家を悩ませていた。そこで、沢山の木を植えて風を防いだため、「防風林緑地公園」と名付けられた。

昔と比べて木の本数は少なくなっているそうだ。

④未来くる園：かつて開拓農家が育てていた植物を展示していた園の跡地となっている。

この4カ所をゴールまでの目標地点にしてウォーキングを行った。三方原に残されている開拓碑には、入植した数多くの開拓者の氏名が刻まれている。開拓碑の碑文も読み解き、当日は資料として配布したという。

浜松には、戦前から存在していた「聖隷福祉事業団(当時は聖隷保農園)」というキリスト教の法人があって、その影響もあり、キリスト教徒の足跡に多くの人々の関心が寄せられることを願いたい。

オオムギ間作・開花植物で害虫抑制 技術マニュアルを公開

今年3月、宮城県農業・園芸総合研究所(名取市)は、「オオムギ間作・開花植物による露地野菜の害虫抑制技術マニュアル—宮城県版」を公開した。

781号でも紹介したように、同所は露地野菜栽培において、農地の通路部分に間作や開花植物を植えることによる害虫抑制技術を試験研究している。

これまでの研究成果から、同技術が害虫を抑制するメカニズムや、技術を利用する際の方法や注意点、実際の抑制効果や経費試算などがまとめられている。この中から、害虫を抑制するメカニズムを改めて紹介したい。

〈害虫とその天敵が存在〉

マニュアルでは、キャベツ、ブロッコリーなどの「アブラナ科野菜」とネギ、タマネギなどの「ネギ属野菜」の害虫を対象とした抑制技術を紹介している(図)。キャベツではコナガ、アオムシ(モンシロチョウ)、アブラムシなど、ネギではネギアザミウマといった害虫が問題になる。これらの害虫

に対し、ヒラタアブ類、テントウムシ類、ゴミムシ類、コモリグモ類、寄生バチ類といった天敵が存在する。

害虫たちにとっての天敵をほ場に呼び寄せさせる環境をつくり、害虫を退治してもらうのがこの技術の狙いである。

〈天敵誘引と抑制メカニズム〉

間作オオムギは、ヒラタアブ幼虫(天敵)の餌となる、オオムギを狙う別種のアブラムシなどの餌虫や、ゴミムシ等の天敵の住処を供給する。こうして天敵類がほ場で増えて、作物上の害虫を捕食(攻撃)する。

また、オオムギを間作すると、キャベツに産卵するモンシロチョウの数を減少させる効果もある。モンシロチョウは視覚や嗅覚を使って産卵場所を探すが、オオムギが畝間に生えていると、ムギの緑色や葉の匂いなどに惑わされてキャベツを見つけにくくなる。

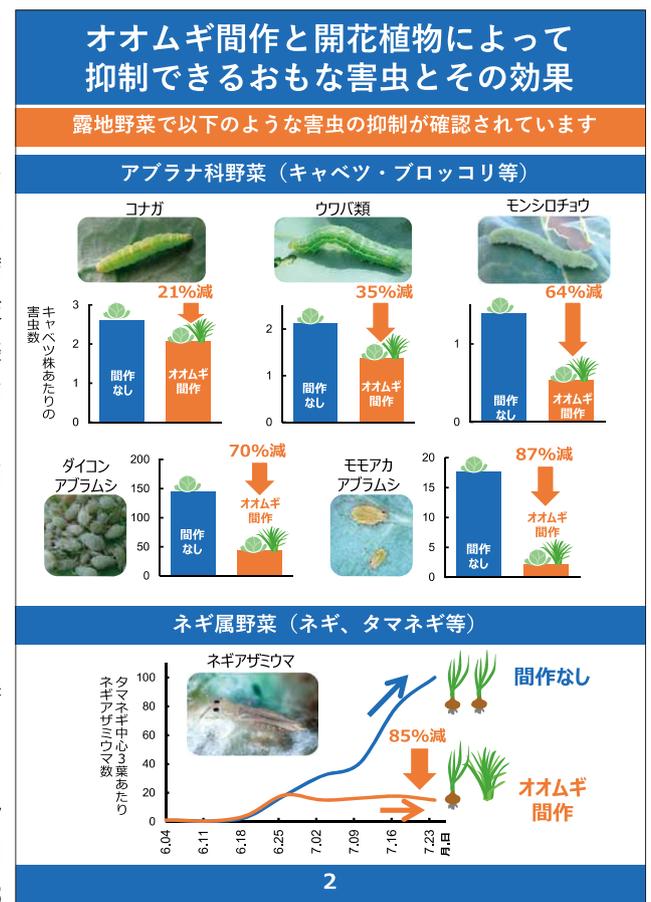
開花植物(ハゼリソウなど)は、花蜜や花粉をつくり天敵の成虫の餌となるため、ヒラタアブや寄生バチなどの

成虫をおび寄せさせる役割を持つ。

〈技術の活用法について〉

今回のオオムギ間作・開花植物を用いた技術は、総合的病害虫管理(IPM)技術の1つで、他の様々な防除技術と適切に組み合わせることによってさらなる害虫抑制効果が期待される。その他の技術として、黄緑色LEDランプ、交信かく乱剤、昆虫病原性糸状菌製剤、BT剤が紹介されている。

このマニュアルは、二国間国際共同研究事業(JPJ008837)によって研究を取りまとめたものである。同マニュアルは、宮城県農業・園芸総合研究所HP内「開発した技術」をクリックするか、QRコードからアクセスして閲覧することが出来る。



宮城県農業・園芸総合研究所の同マニュアルから転載



スマートフォンをお持ちの方は
こちらから

春・夏秋野菜、タマネギすべて減少 23年産指定野菜収穫量

農水省が4月30日に公表した「23年産指定野菜(春野菜、夏秋野菜等)の作付面積、収穫量及び出荷量」によると、全国の収穫量は前年産に比べ、春野菜は2%減、夏秋野菜とタマネギも4%減となった。

なお、能登半島地震の影響で調査が行えなかった石川県を除いた主産地県の値により、全国値が推計されている。

〈春野菜〉

作付面積は3万3600haで、前年産より400ha(1%)減少した。収穫量は3万4000t(2%)減の184万3000t、出荷量は1万9000t(1%)減の172万7000tだった。

10品目の収穫量をみると、春ダイコン・春夏ニンジン・春ハクサイ・冬春ナス以外の6品目が前年産に比べ減少している。増加率が最も大きかったのは春夏ニンジンで2%増。最も減少率が大きいのは冬春キュウリと冬春ピーマンで5%減となった。

冬春キュウリは、高齢化などによる労力事情から作付面積が減少し、収穫量も減少。冬春ピーマンは、労力事情による作付面積の減少に加え、主産県である鹿児島県、宮崎県などで冬の天候不順が影響したことから、収穫量も減少した。

〈夏秋野菜〉

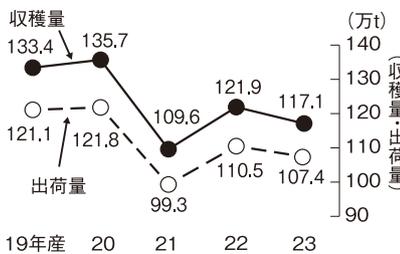
作付面積は、5万9000haで前年産より

り1100ha(2%)減少した。収穫量は8万3000t(4%)減の216万t、出荷量は4万7000t(2%)減の190万2000tとなった。

10品目の収穫量をみると、全品目が前年産より減少している。最も減少率が大きかったのが、秋ニンジンと夏ハクサイの7%減だった。

秋ニンジンは、北海道で肥大期に降雨が少なく、根部の肥大が抑制された

タマネギの収穫量及び出荷量の推移(全国)



ことなどから、10a当たり収量は220kg(6%)減となり、収穫量も減少。夏ハクサイは、前年産の価格が低迷したことなどから作付けの抑制などがあつ

たため、作付面積が170ha(7%)減少し、収穫量の減少につながった。

〈タマネギ〉

作付面積は、2万5400haで、前年産より200ha(1%)増加した。収穫量は4万8000t(4%)減の117万1000t、出荷量は3万1000t(3%)減の107万4000tだった。

10a当たり収量は230kg(5%)減の4610kgだった。一大産地である北海道で、肥大期の高温による影響で枯葉が促進し、肥大が抑制されたことなどから、減少につながった。

収穫量、ミカンは前年産並み、リンゴは減少 23年産統計調査

農水省は5月17日、23年産ミカン・リンゴの結果樹面積、収穫量及び出荷量を公表した。

【ミカン】

ミカンの果実数は、多くなる年(表年)と少なくなる年(裏年)が交互に発生するとされていた。これまでの統計では、前回の表年か裏年と比較していたが、近年は表年と裏年の収穫量の差がなくなってきたため、今回の統計から前年産統計と比較する方式へ改められた。

結果樹面積は3万5400haで、前年産より800ha(2%)減少した。収穫量は前年産並みの68万1600t、出荷量は4100t(1%)増の61万7100t。

10a当たり収量は50kg(3%)上

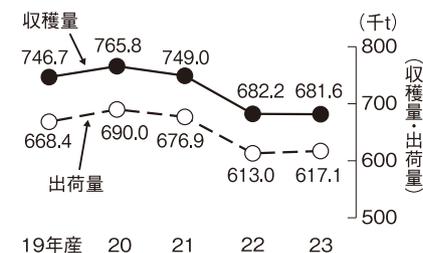
回り、1930kgとなった。品種別の収穫量割合は「早生温州」が約6割を占めている。都道府県別の収穫量割合は、和歌山県21%、愛媛県16%、静岡県15%、熊本県12%、長崎県6%で、この5県で全国の約7割を占めている。

【リンゴ】

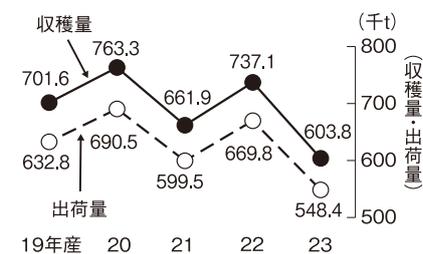
結果樹面積は3万4600haで、前年産より500ha(1%)減少。収穫量は13万3300t(18%)減の60万3800t。出荷量は12万1400t(18%)減の54万8400t。

10a当たり収量は前年産より350kg(17%)下回り、1750kgだった。開花期の凍霜害発生により着果数が減少したことや、果実肥大期の高温・少雨により日焼け果が発生したことなどが原因とみられる。

ミカンの収穫量及び出荷量の推移(全国)



リンゴの収穫量及び出荷量の推移(全国)



品種別の収穫量割合は、「ふじ」が5割超を占める。都道府県別の収穫量割合は、青森県62%、長野県18%、岩手県5%の3県で約9割を占める。

ホタテ貝殻を焼成し堆肥化資材に 薬剤耐性菌や細菌の発生抑制

近年、様々な形で薬剤耐性菌が問題となっている。酪農学園大学は、産業廃棄物であるホタテ貝殻を700℃で加熱・焼成化して粉末状にしたものを堆肥化資材として利用することで、石灰窒素同様、薬剤耐性菌を著しく減少させることに成功した。

～試験方法～

堆肥に含まれる薬剤耐性菌への焼成ホタテ貝殻粉末を添加する効果と、同じく、石灰窒素を添加する効果を調べるため、以下の3つの試験を行った。

- 酪農学園大学の附属農場で豚と乳牛のふん尿を採取し、実験室内で、焼成ホタテ貝殻粉末と石灰窒素をそれぞれ添加し、薬剤耐性菌に対する効果を調査。
- もみ殻を混ぜた豚ふん(豚ふん約50kg、もみ殻約70kg)を21年10～11月にかけて屋外で、好気性堆肥化試験を実施(写真)。各群5kgずつに分けて、対照区、焼成ホタテ貝殻粉末添加区(4%添加)、石灰窒素添加区(4%添加)を設定。焼成ホタテ貝殻粉末と石灰窒素をそれぞれ追加する前・追加直後・追加2日後・追加13日後の細菌数等を調査。
- 堆肥の肥料としての効果を確認するため、酸性土壌(黒ボク土)約50gを入れたポットを屋内で3つ用意。1つめのポットに焼成ホタテ貝殻粉末を添加した堆肥0.5g、2つめに石

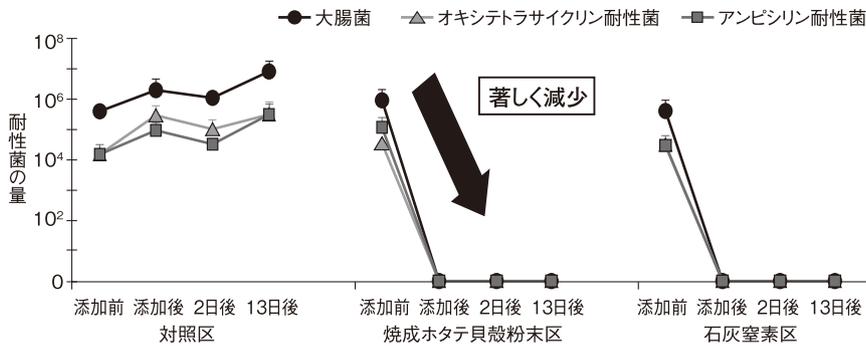


灰窒素を添加した堆肥0.5g(通常の飼料等の畑で換算すると、7.5t/haに相当)を加え、各群のpHを測定した。

～結果～

- 乳牛のふん尿・豚のふん尿ともに、焼成ホタテ貝殻粉末および石灰窒素を4%添加すると、細菌(大腸菌やクロストリジウム等)の濃度は検出限界以下となった(下図)。
- 野外農場の堆肥に焼成ホタテ貝殻粉末および石灰窒素を4%添加することで、添加直後に、大腸菌や薬剤耐性菌は、検出限界以下となった。
- 試験前の3つのポットのpHは、4.57だった。堆肥を投入して3日後にpHを測定すると、対照区は4.79、焼成ホタテ貝殻粉末添加区は4.90、石灰窒素添加区は4.86にpHが上昇し、酸性土壌を改善した。

以上のことから、焼成ホタテ貝殻粉末と石灰窒素は、有機堆肥肥料として、薬剤耐性菌や大腸菌などの細菌を減少させることが明らかとなった。なお、戻し堆肥としての利用も可能か試験を行う予定。



図・写真すべて酪農学園大学の資料から

粗濃比改善で蹄疾患防止を 飼料代節約し平均乳量増

近年の飼料費高騰による給与メニューの変更や季節の変化などにより、蹄疾患が発生することがある。NOSAI千葉北部家畜診療所は、蹄疾患が多く発生していた牧場からの相談を受け、18年12月～20年11月まで、飼料の粗濃比を改善することにより蹄疾患の発生を抑制する損害防止指導を行った。

～方法～

該当牧場(フリーストール牛舎)は、搾乳牛60頭・乾乳牛14頭の規模で、約1年間に蹄底潰瘍・白帯病が57件、趾皮膚炎が16件発生。年間1頭当たり2.5回の削蹄を行っていた。調査項目は、水槽設置数などの牛舎構造、飼料の給与内容とした。

～結果～

水槽の位置が低く飲水量が確保できないことや、飼料の粗濃比に偏りがあることなどが原因とみられた。そこで、すぐに改善ができることとして、飼料の給与内容の変更を行った。変更前は粗濃比(飼料成分)が31.5:68.5だったものを、カビ吸着剤を1頭当たり10g添加するとともに、粗濃比を40.1:



連続水槽で水を飲む牛たち

59.9に変更した。

粗濃比の変更により、蹄底潰瘍・白帯病が30件減少した。また、1頭当たりの飼料費が32.1円/日削減され、個体平均日乳量も0.89kg増加した。

以上のことから、粗濃比を改善することで蹄疾患の発症を低減させることができた。この他に実践が推奨される事項として、固め食い防止のための掃き寄せ回数の増加や、趾皮膚炎の対策として蹄浴槽の設置が挙げられる。

なお、乾物摂取量を確保するため、掃除が容易で飲水量の増加が期待できる連続水槽の導入の検討も有効。太い塩ビ管をカットし、排水管やフロートを設置し、自作することも可能。

飼料内容	対策前	対策後
	(kg/頭)	
WCS	4.17	4.60
DCS	8.34	10.00
ルーサン	3.60	4.50
オーツ	1.80	2.25
粗飼料合計	17.91	21.35
配合飼料	19.17	16.00
圧片とうもろこし	0.33	0.33
ビタミン剤	0.15	0.07
カビ吸着剤	0	0.01
脂肪酸Ca	0.10	0.10

飼料成分	対策前	対策後
DM	25.2kg (104%)	24.1kg (100%)
TDN	71.0%	69.5%
NE L	39.7Mcal (109%)	37.5Mcal (103%)
CP	17.5%	17.2%
NFC	40.9%	39.2%
Lでんぷん	27.8%	25.7%
NDF	31.2%	33.4%
L粗飼料 NDF	15.6%	19.8%
粗濃比	31.5:68.5	40.1:59.9

写真・表ともにNOSAI千葉北部家畜診療所の資料

マコモタケを高校生が飼料化 廃棄される茎葉部を牛に



実際のマコモ

海外情勢の不安定化などによる飼料費の高騰は酪農家の経営を大きく圧迫しており、飼料の国産化・自給化が求められている。

おかやま山陽高校(浅口市)の生徒たちが、地域で生産されている「マコモタケ」の廃棄されている茎葉部分を飼料化する取り組みを行い、22年度の高校生ビジネスプラン・グランプリで審査員特別賞を受賞した。

マコモタケとは、マコモの根元の部分のこと。水田で栽培するイネ科の多

年草で、これまで人が食べる根元の部分以外は廃棄されていた。

そこで、生徒たちは耕作放棄地の活用も視野に、マコモタケの飼料化に向け以下の2つの方法で栽培から飼料化までの一連の実験を行った。

実験では、①茎葉部を収穫し生で給与②サイレージ化して給与、の2形態で行った。飼料会社の分析では、いずれも栄養価の高い粗飼料としての評価を得ることができたという。また、さらに嗜好性と保存性を高めるべくペレット化も試案・検討した。

全国の水田及び水を張った耕作放棄地での栽培が可能とみられるが、実験



試作したマコモ飼料を給与する高校生の皆さん(写真提供:おかやま山陽高校)

では手作業での播種・収穫しか行っていないため、播種機や収穫機が使用できるかは不明な状況。地域によっては、稲作の輪作としてマコモタケを育てている地域もあるようだ。

研究途上の技術だが、酪農家に心を寄せる高校生の研究が実り、実用化されることを期待したい。

βカロテン製剤給与でVA制御緩和

黒毛和種 肉質維持し高い増体が期待

近年、黒毛和種の育種改良が進み、枝肉成績が向上している。枝肉形質は遺伝による影響が大きいので、ビタミンA(以下、VA)コントロールレベルを緩和しても高い肉質が確保できることが期待できる。経営面では、肥育コストを削減するため、出荷を早める早期肥育への関心が高まっている。

そこで千葉県畜産総合研究センターは、26ヵ月齢まで出荷月齢を早めた早期肥育において、VA欠乏症による生産性の低下を防ぐことを目的としたVAコントロールレベルを緩和した肥育方法を検証した。

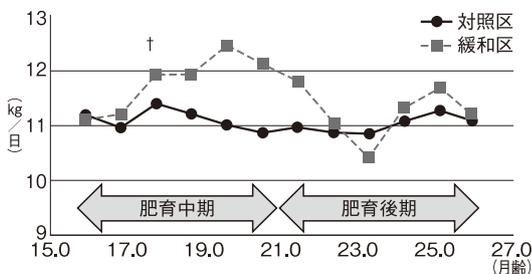


図1 飼料摂取量の推移
試験区×時間：交互作用あり(p<0.05)
†：試験区間に傾向あり(p<0.1)

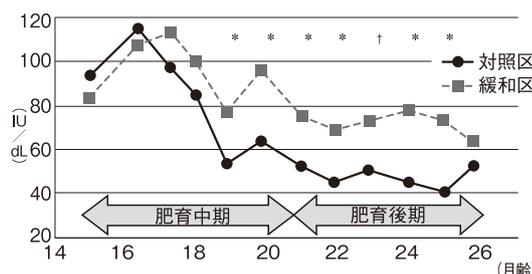


図2 血中レチノール濃度
試験区×採取時期：(p<0.05)
*：試験区間に有意差あり(p<0.05)
†：試験区間に傾向あり(p<0.1)

【試験方法】

肥育試験は21年7月～22年6月にかけて実施した。肥育前期を10.1～14.9ヵ月齢、肥育中期を15.0～20.9ヵ月齢、肥育後期を21.0～26.1ヵ月齢とし、平均26.1ヵ月齢でと畜した。

試験区はVAの前駆体であるβカロテン製剤を添加給与し、血中レチノール(VAの中の一つ)濃度を60～80IU/dLにコントロールする「緩和区」と、βカロテン製剤を添加給与しない「対照区」の2区を設けた。

供試牛は黒毛和種去勢牛8頭を用いた。平均9.5ヵ月齢で導入し、15ヵ月

で種雄牛、GH(成長ホルモン)遺伝子型と体重に偏りがないように各区4頭を設置した。

市販のβカロテン(0.4%)・ビタミンE製剤(0.4%)を用い、添加量は試験開始時点のVA要求量の1/2にあたるβカロテン24mg相当量を毎日1回飼料にトップドレスで給与した。なお、添加量は緩和区の平均血中レチノール濃度が60IU/dLを下回った場合に増給することとした。

肥育前期用配合飼料は①TDN71%以上、CP17%以上、VA2232IU/kg含有の市販配合

飼料と、②TDN72%以上、CP17%以上、VA3000IU/kg含有の市販配合飼料の2種を混合したものを用いた。

肥育中後期用配合飼料はTDN72%以上、CP12.5%以上、VA250IU/kg含有の市販肥育用配合飼料を用いた。チモシーと稲わらは長さ5cmに細断し、配合飼料と混合して給与した。

【結果】

飼料摂取量は図1の通り。肥育中期において緩和区が高く推移したが、その後減少し、肥育後期では対照区と同等となった。

日増体量は肥育中期に緩和区で高い値を示した。これにより体重は肥育中期に緩和区が高く推移した。飼料摂取量は肥育中期に緩和区で高く推移したことから、このことはβカロテン製剤の添加によって飼料摂取量が上昇したことによるものと考えられる。

血中レチノール濃度は図2の通り。対照区で17.3～19.1ヵ月齢まで、緩和区で18.2～19.1ヵ月齢まで急激に低下し、その後は緩やかに推移した。また、19.1～25.3ヵ月齢まで緩和区が対照区より20IU/dL程度高く推移した。

枝肉の格付成績は全頭A5等級となった(表1)。BMS、きめ、しまりなど肉質は同等だった。枝肉重量は飼料摂取量や体重を反映し緩和区が高い値を示し、枝肉重量、ロース芯面積を含めた肉付きがよい結果となった。

表1 枝肉成績

	対照区	緩和区	P値
格付け成績	A5:4頭	A5:4頭	
枝肉重量(kg)	501	517	0.29
ロース芯面積(cm)	65.0	71.3	0.45
バラ厚(cm)	8.0	8.1	0.88
皮下脂肪厚(cm)	2.2	2.3	0.85
歩留基準値(%)	74.9	75.6	0.58
BMSNa	10.0	10.0	1.00
BFSNa	2.3	2.3	1.00
しまり	5.0	5.0	1.00
きめ	5.0	5.0	1.00
枝肉単価(円)	2,148	2,231	0.21
枝肉金額(円)	1,075,284	1,157,048	

※図・表はすべて千葉県畜産総合研究センターの資料から

表2 肥育コスト試算

	対照区		緩和区	
	稲わら	配合飼料	稲わら	配合飼料
飼料摂取量(kg)	352	3,333	367	3,470
	合計		3,685	3,837
金額(千円)	売上	枝肉販売額	1,075	1,157
	費用	飼料費	253	263
		βカロテン製剤		2
	差額		822	892

注) kg単価：稲わら63.5円、市販配合飼料69.1円
βカロテン製剤1gあたり1.0円

肥育に要した摂取量、飼料費、枝肉販売額についての差は表2の通り。飼料費は、肥育中期の採食量が多かった緩和区で高かったが、枝肉販売額は枝肉重量や枝肉単価の高い緩和区で高く、その差は緩和区が7万円高くなった。

これら試験結果から、VAコントロールについては、VA制限時期の血中レチノール濃度を60～80IU/dLに上昇させても、枝肉成績に影響を与えない可能性が示された。また、βカロテン製剤の毎日給与により、肥育中期の採食量が上昇し、増体量が増加する傾向が認められた。緩和区で枝肉重量が大きく、収益性が向上したことから、枝肉成績に悪影響を及ぼさずに枝肉重量を改善する手法として有効であると同センターは分析している。

人も牛も暑さ対策を ハエ対策も忘れずに

気象庁が全国の向こう3ヵ月予報(6～8月)を発表した。平均気温は全国的に平年よりも高く、特に8月は北日本・北海道も平年より高くなる見込みで、全国で暑熱対策が必要となる。

〈畜舎での対策〉

直射日光は、牛舎内の温度を上昇させるなど、日射病・熱射病につながる。寒冷紗やよしず、緑のカーテンなどを用いて直射日光を遮断し、日陰をつくり温度上昇を抑える。屋根をペンキ等で白く塗ることや、断熱材の設置や散水を行うことも断熱効果につながる。

換気も重要な対策である。牛舎内を整理・清掃し、風通しを良くする。また、送風機などを活用して牛体(特に熱の発散効果が高い、頭から肩にかけて)に直接風を当てるのも効果的だ。その際、事前に送風機や換気扇の清掃・点検を行い、予め準備しておくことが肝要である。

〈飼養管理面での対策〉

牛は、体内に大量の熱を発生させる第1胃を持っているため、牛同士の体温放熱によって熱射病になるおそれがある。そのため、密飼いを避けるほか、冷水の噴霧などの対策が有効だ。

飼料の給与は、給与回数を増やして発酵熱を安定させたり、朝夕の涼しい時間帯に給与を行う。その際、ルーメンアシドーシスの予防に重曹や塩を給与するほか、消耗するミネラルやビタミンを増給するのが望ましい。

飲水量も多くなるため、給水器の清掃をこまめに行い、常に新鮮で清潔な水が飲めるようにする。水槽に直接日光が当たると水温が上がるため、よしずなどで覆うのも効果的だ。

〈やっかいなハエも対策を〉

ハエの発生は6～7月にピークを迎える。家畜に対して不快感やストレスを与えて生産性を低下させるほか、家畜防疫の面からも防除は重要だ。

ハエは湿った糞や飼料に産卵するため、食べ残した飼料なども含めて速やかに処理し、こまめに清掃する。堆肥化処理では、温度40℃以上、水分50%以下の条件でふ化率は激減する。1週間以内の間隔で切り返しを行う。堆肥への石灰窒素の定期的散布も有効だ。

ハエの幼虫は成虫の4倍存在すると言われ、薬剤を用いる場合は、幼虫の段階で発生源を潰すとより効果的だ。同じ薬剤を使い続けると抵抗性を得るため、適宜、異なる種類の薬剤を用いる。なお、薬剤の管理は徹底的に行い、牛体にかかったり、飼料への混入などが起きないように十分に注意する。

また、周囲の雑草を定期的に除草す

ることで、ハエの休息場や隠れ家をなくすことも効果的だ。

〈作業が一番注意!〉

最後に、作業者自身も熱中症にならないように、よく警戒する。日中の気温の高い時間帯を外して計画的に作業を行う。作業前・作業中は、適宜水分補給を行い、こまめに休憩をとり、一人での作業を避ける。

熱中症が疑われる場合には、作業を中断し、応急処置(涼しい環境へ避難、衣服をゆるめ体を冷やす、水分・塩分の補給)を行う。応急処置をしても症状が改善しない場合は、必ず医療機関を受診する。充分に対策を行い、危険な暑い夏を乗り切りたい。

乳用種で発動続く 牛マルキン4月分

農畜産業振興機構は6月12日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(24年4月分、概算払)を公表した。

乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行わ

れる。肉専用種は24都道府県で発動した。なお、交雑種は昨年12月分から5ヵ月連続で発動していない。

交付金単価(1頭当たり)は、乳用種が1万2178.1円(3月は3万5480.7円、確定値)となっている。

前月分と比べると、乳用種は素畜費に加え、飼料費が大きく減少し、交付金は減額となった。

千葉の街中で酪農アピール ミルクフェスティバル 2024 in 千葉



千葉県酪農農業協同組合連合会（千葉県酪農農業協同組合が会員）と千葉県牛乳普及協会は、6月1～2日の2日間、千葉ポートパークにおいて「ミルクフェスティバル2024」を開催した。

天候にも恵まれ、会場には多くの家族連れ等が訪れた。

酪農や牛乳について、より深く知ってもらおうと、子どもたちが興味を抱きそうな様々な催しが行われた。

千葉市の北に位置する八千代市から本物の搾乳牛と子牛が来場し、初めて間近で牛を見る子ども達は、好奇心と怖さで大きく目を見開いていた。また、

飼い主の方からの普段の生活についての説明に、熱心に耳を傾けていた。

人気コーナーとして、牛乳・乳製品の試飲、搾乳の模擬体験、牧草を積み上げての「牧草ベッドに寝転んでみよう」、などに長い行列ができていた。

その他に、牧草やトウモロコシなどの牛の飼料の紹介や、バター作り教室やポニーの試乗など、体験型イベントも多く、酪農の魅力を十分にアピールしていた。

6月は牛乳月間、6月1日は牛乳の日ということで、全国各地で様々なイベントが開催されていたようだ。



上：イベントステージでは、千葉県PRマスコットの「チーバくん」登場
左下：初めて見る本物の牛に興味しんしん 右下：乳しぼり体験もおっかなびっくり

牛枝肉 F1相場は落ち着き、乳用種ももちあいか

今年の夏も暑くなりそうだが、焼肉需要の動きは鈍いようだ。

和牛の需要は停滞しており、F1についても5月は期待を裏切り、弱もちあいの動きにとどまった。

乳去勢は、低価格指向もあり、強もちあいの動きで、1000円を超える日もあった。

【乳去勢】5月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価（速報値）は、991円（前年同月比105%）となり、前月より65円上がった。

6月に入り、B2で1000円を超える動きとなってきた。

【F1去勢】5月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B3が1581円（同105%）、B2が1420円

（同106%）だった。前月に比べ、B3が24円、B2が71円それぞれ下がった。

6月になり、春先ほどの勢いが落ち着き、B3で1500円台の相場となっている。

【和去勢】5月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2122円（同95%）、A3が1961円（同98%）だった。前月に比べ、A4が44円下がり、A3も69円下がった。

6月に入っても、A4で2100円を割ることが多い推移となっている。

【輸入量】農畜産業振興機構は6月の輸入量を総量で4万2800t（同98%）と予測。内訳は、冷蔵品1万5900t（同96%）、冷凍品が2万6900t（同99%）。冷蔵品は現地価格の高騰が続き、米国産輸入量の減少が見込まれる。

【出荷頭数】6月の出荷頭数は、和牛3万9000頭（同96%）、交雑種1万

9500頭（同92%）、乳用種2万3900頭（同93%）と、全ての品種で前年を下回る出荷頭数となる見込み。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が950～1050円、F1去勢B4が1600～1700円、同B3が1500～1600円、同B2が1350～1450円、和牛去勢A4が2050～2150円、同A3が2000円前後での推移か。

豚枝肉 国産への引き合いが強く、堅調な動きが続く

5月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が714円（前年同月比111%）、中物は699円（同111%）となった。前月に比べ上物が101円、中物が103円それぞれ急上昇した。

6月に入り、初旬まで上物が800円を超える動きだったが、2週目には600円台での相場展開となっている。輸入物の高騰もあり、国産の頭数も伸びないので、高値での動きが続く見込み。

農水省の肉豚生産出荷予測による

畜産物需給見通し

と、6月は131万頭（前年同月比99%）で、例年並みの見込み。昨年の猛暑も影響し、出荷頭数は伸びない見込み。

農畜産業振興機構の需給予測によると、6月の輸入量は総量で8万3900t（同103%）と、前年より増加する見込み。内訳は、冷蔵品3万2300t（同

104%）、冷凍品5万1600t（同103%）。前年の輸入量が少なかったことから、前年同月を上回っているが、米国産等の高値は続いている。

これから夏へ向かい、輸入量も伸びないことで、国産への需要は引き続き強まる展開となりそう。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が650～750円、中物も630～730円で推移か。

5月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック名	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	537	515	318	315	175,482	168,514	552	535
	F1去	2,248	2,134	346	335	347,908	358,377	1,006	1,070
	和去	2,543	2,344	341	330	640,014	690,212	1,877	2,092
東北	乳去	-	4	-	308	-	62,700	-	204
	F1去	3	5	248	247	140,433	159,940	566	648
	和去	2,812	2,750	326	326	584,962	635,201	1,795	1,951
関東	乳去	43	3	325	330	304,265	137,133	935	416
	F1去	165	192	365	352	363,466	345,721	995	983
	和去	768	1,049	337	321	663,794	692,436	1,969	2,155
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	-	195	-	292	-	597,926	-	2,051
東海	乳去	1	-	410	-	79,200	-	193	-
	F1去	65	62	327	322	343,573	368,766	1,050	1,145
	和去	500	279	286	273	647,079	668,366	2,261	2,452
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	348	378	264	263	930,132	909,077	3,523	3,451
中四国	乳去	33	42	328	309	125,467	118,067	382	382
	F1去	256	260	340	328	370,614	366,554	1,091	1,116
	和去	761	1,127	319	311	542,816	580,896	1,702	1,868
九州・沖縄	乳去	4	4	267	275	47,300	116,050	177	422
	F1去	439	410	341	331	351,083	363,832	1,030	1,100
	和去	10,188	8,876	306	304	574,280	634,289	1,876	2,089
全国	乳去	618	568	319	314	180,786	163,503	567	521
	F1去	3,176	3,063	345	335	350,701	358,894	1,017	1,071
	和去	17,920	16,365	315	311	596,726	650,840	1,894	2,093

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

素牛 スモール 乳雄スモールの高騰で、相場の動きは鈍るか

【スモール】5月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格（農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値）は、乳雄が8万7981円（前年同月比127%）、F1（雄雌含む）は16万4412円（同133%）の急騰となった。前月に比べ、乳雄は2万3693円、F1も3万7105円の上昇となった。

乳雄は頭数が減少していることもあり、予想以上の急騰となっている。枝肉相場はもちあい予想だが、肥育農家の動きは鈍りそう。F1は枝肉相場の動きが落ち着いてきているので、もちあいとなりそう。

【乳素牛】5月の乳素牛の全国1頭

当たり税込み平均価格（左表、月末の取引結果を除く暫定値）は、乳去勢が18万786円（同103%）、F1去勢は35万701円（同104%）だった。前月に比べ乳去勢は1万7283円上昇し、F1去勢は8193円下降した。

乳去勢は頭数減だが、素牛価格はもちあいで推移か。

F1去勢は和牛からのシフトや頭数減もあるが、枝肉相場がもちあいで、素牛相場も動きが弱まる可能性あり。

【和子牛】5月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格（同）は、59万6726円（同93%）で、前月より5万4114円下降した。

和牛の枝肉相場は軟調が続き、子牛価格も動きは強まらず、弱もちあいの展開が予想される。